

第5章 関連文化財群

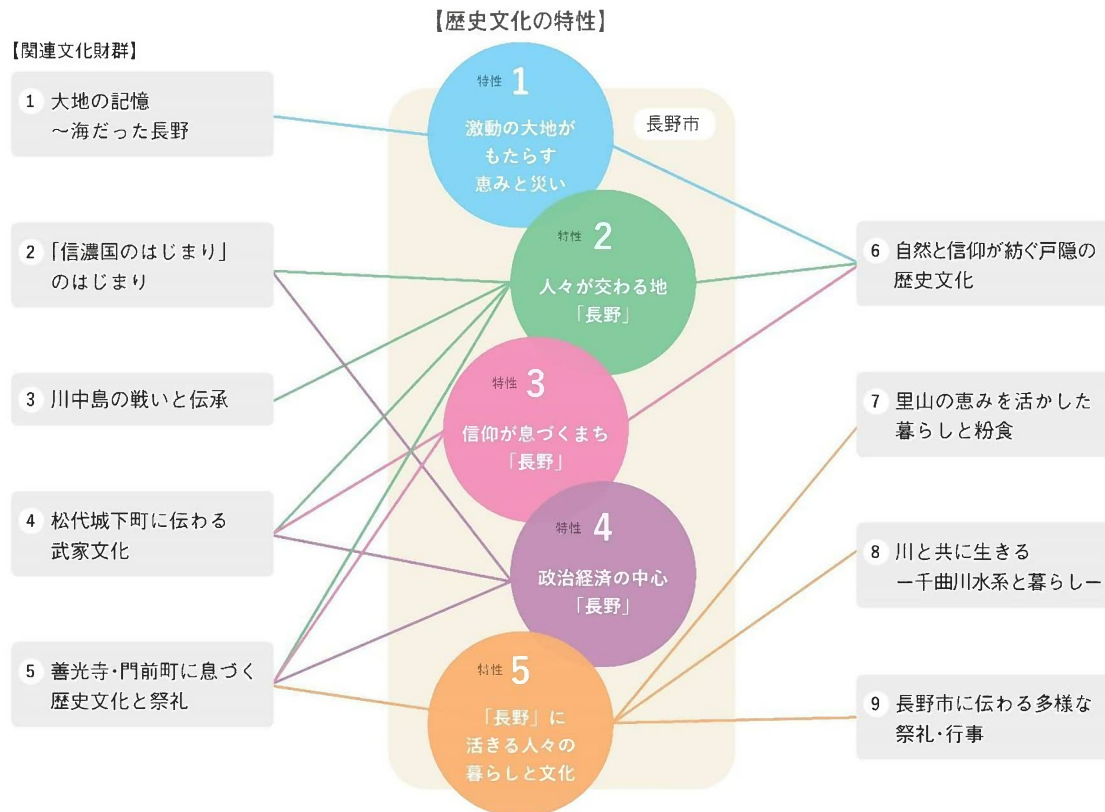
1 関連文化財群の考え方

関連文化財群とは、「地域の多種多様な文化財を歴史文化の特性に基づいて一定のまとまりとして捉えたものである。まとまりをもって扱うことで、未指定文化財についても構成要素としての価値付けが可能となる。」（「文化財保護法に基づく文化財保存活用大綱・文化財保存活用地域計画作成等に関する指針」文化庁 令和5（2023）年3月最終変更）とされている。

広域で多様な文化財を有する本市の歴史文化の特性を把握するためには、指定・未指定にとらわれず、共通の背景や文脈を持つ文化財をストーリーでまとめることで、俯瞰的な視点で歴史文化の特性をとらえることが可能になる。加えてストーリーをふまえた総合的な保存・活用に取り組むことで、市民や来訪者等に対して、歴史文化の理解促進や地域毎の魅力向上が期待される。

2 長野市の関連文化財群

前項の設定方針をふまえ、第3章でまとめた本市の五つの歴史文化の特性を基に、長野らしさを表す九つの関連文化財群を設定した。



1) 関連文化財群1 大地の記憶 海だった長野

ア 激しい地殻変動がつくり出した特徴的な景観

長野市の周囲の山地はフォッサマグナ地域の海底に堆積した厚い地層でできている。これらの地層からは貝類や魚類、海生哺乳類などの化石が発見されており、海だったことがわかる。

これらの中には、大規模噴火の際に堆積した地層も見られる。東部山地では、約 1,600 万年前の海底で噴出した緑色凝灰岩類（グリーンタフ）が見られる。若穂の玄武岩質枕状溶岩が県天然記念物に指定されている。長野市西部では約 700 万年前



大柳の枕状溶岩

の流紋岩質の海底噴火でできた裾花凝灰岩層が盆地西縁部に露出する。500 万年前にも安山岩質の海底火山の噴火があり、戸隠山や虫倉山、久米路峡などをつくる凝灰角礫岩類が堆積した。これらは、長野市が海底で何度も大規模な火山噴火をしてきたことを示す証拠である。これらの岩石は長野市内の各地域において石材として古くから利用されてきた。

堆積岩類が分布する地域も広く、犀川や裾花川沿いでは堆積岩類が褶曲して傾斜した地層が観察される。中でも鬼無里の奥裾花峡谷では、日影向斜軸部の観察や、リップルマーク、ポットホール、ハチノス状風化岩など地層堆積の現象、大地の隆起と水による浸食が生み出した各種の地質現象が見られ、県の名勝となっている。これらの海成の堆積岩類は、その後の隆起で褶曲しており、豪雨時や融雪期に地すべりによる被害をもたらす一方で、周囲に比べてなだらかな地形となり、農業も行いやすいために古くからの人が住みやすい場所でもあった。

約 200 万年前から長野の海は新潟県方面に退き、長野県北部は隆起を始め山地となっていく。約 80 万年前から、長野盆地周辺の山地で火山活動が激しくなり、斑尾、志賀高原、草津白根、四阿などの第四紀火山群が噴火した。飯縄山もその一つで、約 40 万年前から噴火を繰り返し成層火山として成長し、なだらかな山麓をつくり高原のリゾート地やスキー場として利用されている。松代の皆神山（35 万年前）、若槻の髻山（25 万年前）も溶岩ドームである。また、標高の高い多雪地域では氷河期に侵食が進み、地層が硬い部分では急峻な地形となり、戸隠山のように特徴的な景観をつくった。特徴的な山容をもつ飯縄山、戸隠山、皆神山などは山岳信仰の対象ともなった。

長野盆地西縁断層の動きによる盆地の沈降は、犀川や裾花川の扇状地を形成する原動力となっているとともに、近世以降における最大の被害地震として弘化 4（1847）年の善光寺地震を起こした。長野盆地西縁に位置する善光寺や川中島などの観光地もこうした扇状地の上にある。また、犀川の扇状地は千曲川を東側へ移動させ、松代城が現在の場所に立地する背景ともなっている。また、扇状地は水が浸透しやすいので、鐘鋳堰をはじめとする旧流路を利用した用水路が各地で発達した。

イ 市内で見つかる海の生き物などの化石

長野市の西部山地では、約 1,000 万年から 200 万年前の海成層が表面に露出している。その地層からは、海洋生物の化石が多く見つかかり、古くは江戸時代中期に平賀源内が著した『ぶつるいひんしつ物類品隲』にも登場する。これらの化石から、長野が海だった時代の古環境を知ることができる。



シンシュウセミクジラ化石

信州新町周辺（長野市西南部）では 500 万年前ころの地層が分布し、セイウチやシンシュウセミクジラ（セミクジラ属の最古の種類）の化石等が発見されている。貝化石からは上部浅海帯から下部浅海帯（大陸棚より浅い）の古環境であったことがわかっていてる。

中条から戸隠地区にかけては、400 万年前から 250 万年前ころの地層が分布し、クジラやカイギュウなどの海生哺乳類化石のほかに、カキやホタテなど貝化石が産することから、長野市西部に海岸線が存在したことがわかる。中条や戸隠、鬼無里等で見つかったミエゾウ（シンシュウゾウ）は、中国大陸を起源とする世界最大級のステゴドンゾウの一種である。この化石は、当時の日本がかつて大陸と陸続きであったことを示している。

ウ 関連文化財群設定のねらい

本計画期間では長野市の大地の生い立ちを特徴づける地質現象並びに古生物に関連する文化財群について取り上げ、長野盆地と周辺の山間地の地質的特徴についての普及啓発、またそれを示す記念物等文化財の保護に向けた取組を進めていく。

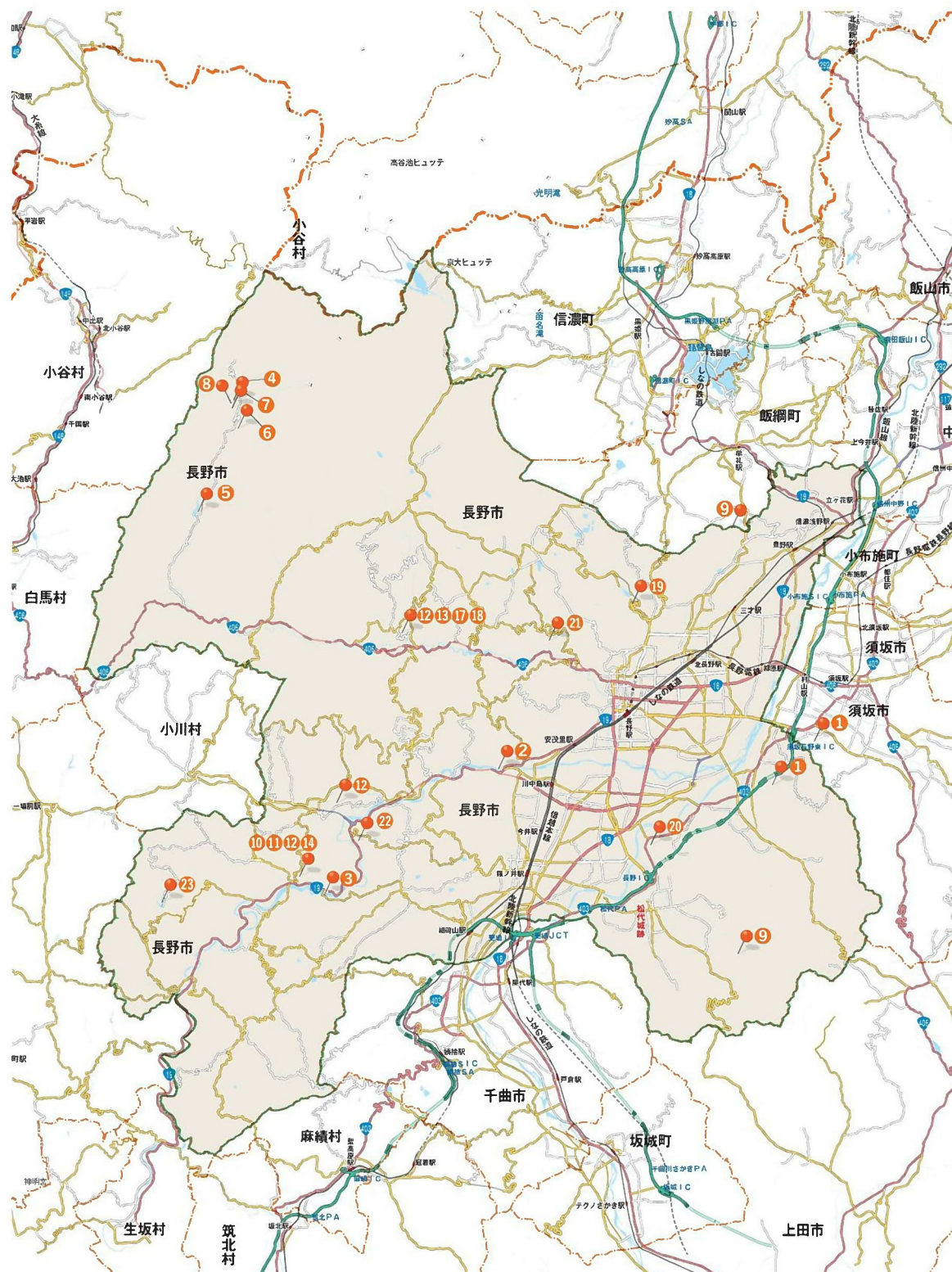
構成文化財一覧

番号	名 称	概 要	類 型	指定等状況
1	大柳及び井上の枕状溶岩	フォッサマグナ地域に噴火した玄武岩質溶岩。海底に噴火したもので、枕状に積み重なったもの。約 1600 万年前のもの。	地質鉱物	県指定天然記念物
2	裾花凝灰岩	約 700 万年前の海底噴火でできた流紋岩質の凝灰岩類。長野盆地西縁断層によって隆起したため、盆地西縁に分布する。	地質鉱物	未指定
3	久米路峽	犀川流域に分布する硬い火砕岩類が露出しており狭窄部となっている。そのため、古来より橋が架けられてきた。	名勝	市指定天然記念物

4	奥裾花のケスタ地形	硬い地層と柔らかい地層が重なり、硬い地層面が差別浸食を受けて、地形面をつくった地形。	地質鉱物	市指定天然記念物
5	奥裾花峡谷	裾花川が侵食して作った渓谷で、全長約 5 km、比高 100 m の絶壁が続き、約 300 万年前の地層が観察できる。	名勝	県指定名勝
6	日影向斜の向斜軸	奥裾花溪谷の地層の傾斜が左右で異なる向斜構造（褶曲構造の谷型の部分）を観察することができる。	地質鉱物	市指定天然記念物
7	れんこん 漣痕（リップルマーク）	水の流れによって堆積岩の表面に形成される波形模様。千畳敷岩の表面で観察できる。	地質鉱物	市指定天然記念物
8	せんじょうじきいわ 千畳敷岩	日影層の硬い砂岩の表面が広く露出している。かつての海底面である。	地質鉱物	市指定天然記念物
9	皆神山・髻山（溶岩ドーム）	約 30 万年前に、粘性の高い溶岩が地下から押し出されてできた火山地形。	地質鉱物	未指定
10	菅沼の絶滅セイウチ化石	鮮新世に広く分布したオントケトゥスという絶滅セイウチの仲間。	地質鉱物	県指定天然記念物
11	やまほかり 山穂刈のクジラ化石	ヒゲクジラの仲間で、新種のシンシュウセミクジラ。体長は約 12m。	地質鉱物	県指定天然記念物
12	貝類化石（シガラミサルボウなど）	シナノホタテやヤマザキホタテ、シガラミサルボウなど絶滅種を含む寒流系の貝化石群集。約 400 万～300 万年前のもの。	地質鉱物	未指定
13	ダイカイギュウ化石	絶滅したジュゴン一種。コンブ食で体長 9 m にも及んだ種類。戸隠・中条で産出。	地質鉱物	未指定
14	裏沢の絶滅セイウチ化石	鮮新世(約 530～260 万年前)に広く分布したオントケトゥスという絶滅セイウチの仲間。	地質鉱物	県指定天然記念物
15	戸隠積沢の化石群	シナノホタテやヤマザキホタテ、シガラミサルボウなど絶滅種を含む寒流系の貝化石群集。約 400 万～300 万年前のもの。	地質鉱物	市指定天然記念物
16	アズメ沢の化石群	10 数枚の化石層が見られ、ホタテガイ類・イガイ類などを多く含む。	地質鉱物	市指定天然記念物

17	ホホジロザメ化石	大型の肉食性板鰐類で、戸隠で歯の化石が産出。暖流の流入を示すもの。	地質鉱物	未指定
18	戸隠川下のミエゾウ化石	中国大陸を起源とする世界最大級のステゴドン(ゾウ)の一種。左右4本の歯が残る下顎化石。約300万年前のもの。中条でも頭骨の一部が産出。	地質鉱物	県指定天然記念物
19	浅川の ^{ゆせい} 油井	約1000万年前の海底に堆積した泥岩層に石油が貯留され、善光寺地震の際に噴出量が増え、明治時代から採掘された商業油田の始まり。油井とポンプが現地保存されている。	地質鉱物	未指定
20	柴石石切り場	安山岩質の火砕流堆積部物で、加工がしやすく、柴石として採石されている。	地質鉱物	未指定
21	^{むじなごうろやま} 貉郷路山石切り場	安山岩の貫入岩体。20数万年前のもので、周囲より硬いので岩山となっており、柱状節理が発達する。	地質鉱物	未指定
22	岩倉山の崩壊地と涌池	善光寺地震で、岩倉山が崩壊し犀川をせき止め、天然ダムを形成した。涌池もその際にできた凹地に水が湧出したもの。	地質鉱物	未指定
23	柳久保池	善光寺地震の際、大きな地すべりが谷をせき止めてできた池。	地質鉱物	未指定

構成文化財の位置図



関連文化財群の保存・活用上の課題と方針

課題)

- ・構成文化財は、戸隠や信州新町など西山地域など現地で保存されているものと博物館で収蔵されているものとがあるが、双方をつなげるような取組が不十分である。
- ・博物館の収蔵資料のなかには調査が不十分なため、その価値が定まっていないうものが多くみられる。
- ・博物館や現地に存在する構成文化財は、市域の大地の歴史や過去の環境を知る上で重要な資料であるが人の目に触れる機会が少ないため、その価値は地元住民にさえあまり知られていない。

方針)

- ・現地で保存されている文化財をフィールドに出て見ることやその景観を見ることと、博物館に展示されている資料を見ることは相補的な関係にあるため、双方をつないで地域の自然の魅力を高める取組を行う。
- ・収蔵資料や野外の構成文化財の調査を進める。
- ・構成文化財の魅力を広く周知する取組を行う。
- ・構成文化財の価値を知る人を育て、その人が活動する場を設ける。

関連文化財群の保存・活用を進めるための措置

措 置	担当	事業内容	行政	文化財所有者	住民関係団体	有識者専門家	事業者	実施期間
1 ・野外観察会の実施	博	戸隠や信州新町など現地で見ることのできる地層等の観察会を実施する。	◎					R6～R13
2 ・構成文化財群の魅力発信事業の実施【新】	博	市域に点在する構成文化財（露頭・景観や収蔵品など）をつないで魅力を発信する。	◎		○	○	○	R6～R13
3 ・フィールドワークの実施	博	市域に所在する露頭などを対象に地質調査を行う。	◎		○	○		R6～R13
4 ・収蔵地質資料の調査研究と整理【新】	博	収蔵資料の調査研究による地質資料の再評価と整理を行う。	◎					R6～R13
5 ・博物館収蔵品のレプリカ作成	博	収蔵品を広く利活用するためレプリカを作成する。	◎					R6～R13
6 ・文化財を活用したグッズ開発の検討【新】	博	博物館収蔵の地質鉱物資料や露頭などを活用したグッズ開発を検討する。	◎		○		○	R6～R9
7 ・SNS等を活用した情報発信	博	戸隠、信州新町博物館のHPの受有	◎		○			R6～R13
8 ・収蔵品データベースの充実とHPのアクセシビリティの向上	博	収蔵品のデータベースへの登録を進め、多くの人がアクセスしやすいようなHPを作成する。	◎		○	○		R6～R13
9 ・市民参加の推進	博	博物館収蔵資料の整理や調査を行うボランティアや現地見学会のガイドなどの市民参加を推進する。	◎		○	○		R6～R13
10 ・教職員への研修	博	野外観察会や、戸隠や信州新町博物館の学校利用を促進させるため、教職員に対し研修を行う。	◎		○			R6～R13
11 ・小中学校教育との連携推進事業	博	学校への講師派遣や、博物館施設等での見学受入れ、地質教材としての資料貸出などを行う。	◎		○			R6～R13

※博＝博物館

(2) 関連文化財群2 「信濃の国のはじまり」のはじまり

ア 箱清水式土器文化圏の成立と展開ー文化圏「赤い土器のクニ」の成立と展開ー

弥生時代に伝わった稲作は、石川条里遺跡（篠ノ井）、川田条里遺跡（若穂）など現在まで続く水田の原風景を形づくり、「箱清水式」と呼ばれる赤く塗った土器に象徴される独自の文化圏を出現させた。

朱塗りの器（壺・鉢・高杯）と櫛描文の器（甕）から構成される箱清水式土器は千曲川流域の広い範囲で用いられ、共通の器を使用する「広域生活圏」を示している。さらに、鉄や銅で造られた釧（ブレスレット）、管玉（ネックレス）、鹿角製の拵を備える短剣、丸い墓への単独埋葬（円形周溝墓）などの習俗も共通し、共通の器による「生活圏」にとどまらない一大「文化圏」を成している。

一方、篠ノ井遺跡群や小島柳原遺跡群ではムラの周りに溝を巡らす「環濠集落」が確認され、集落間の格差や区画意識・排他性など権力の集中する基盤が現れ、社会的階層分化が進んだ、政治性を帯びた社会圏ともなっている。

このように、箱清水式土器の広がり示された圏域はさまざまな性格を兼ね備えていて、『魏志倭人伝』に記された「邪馬台国」時代の長野市域には「赤い土器のクニ」と称すべきクニが誕生していたことを物語っている。



箱清水式土器（国鉄貨物基地遺跡）

イ 「王」の登場ー政治圏「シナノのクニ」の成立と展開ー

弥生時代以降、後背湿地に広がった水田を臨む山上には、川柳將軍塚古墳・姫塚古墳（篠ノ井）、土口將軍塚古墳（松代）、和田東山古墳群（若穂）、大室18号墳（松代・若穂）と前方後円墳が累代的・継続的に築造されている。

さらに、これらの前方後円墳には規模の格差があるうえ、大星山古墳群（若穂）、篠ノ井・高畑古墳群（篠ノ井）のような小型の円墳群も加わり、古墳時代前期（三世紀後半から四世紀）には



伝川柳將軍塚古墳出土遺物 左：鏡 中：琴柱形石製品と玉類 右：埴輪円筒棺

いくつかの集団による勢力圏が重層的に重複する政治・文化圏へ変移している。

なかでも、川柳将軍塚古墳（古墳時代前期後半）は、全長 93m と県内第 2 位の隔絶した規模の前方後円墳であるばかりでなく、お膝元の石川条里遺跡（高速道地点）では手工業生産の集中的生産が行われているなど、比類なき絶対的存在としての「王」の誕生を物語っている。

このように、弥生時代後期に誕生した「赤い土器のクニ」は倭王権（ヤマト王権）との繋がりを背景に、「王」を擁する「シナノのクニ」へと大きく変貌を遂げた。

ウ 馬事文化の到来と積石塚古墳文化—経済圏「シナノのクニ」の特徴—

「王」の存在を示す大型前方後円墳は土口将軍塚古墳（松代、五世紀中葉）を最後に長野市域で築造されなくなる。その後、長野市域では大室古墳群（松代）に代表される石を積み上げて墳丘を構築する「積石塚古墳」が多数みられるようになり、「王」の時代とは大きく様相が変わる。

この劇的な変化が生じたちょうどそのころ、朝鮮半島を通じて乗馬から飼育に至るまで馬に関わる文化総体（馬事文化）が日本列島に導入される。長野市域にも榎田遺跡（若穂）で生産された木製馬具などが示すように導入直後に、「シナノ」の中心となった下伊那地域と時期を違えず馬事文化がもたらされている。馬の利用は道路の整備や拡充を促進し、古くから使われていた「ウミのミチ」に加えて、「ヤマのミチ」の整備・

利用が本格化する。その結果、下伊那地域が倭王権（ヤマト王権）に対する窓口となり、長野市域を含む「シナノ」各地を統括する新しい政治・経済圏を成立させた。善光寺平で新たに展開する積石塚古墳文化は、馬をはじめとした各種手工業生産の担い手集団に関わっている可能性が高い。

ここに至って、北の善光寺平から南の伊那谷を含む令制信濃国の領域が明確となる。長野市域は積石塚古墳という南の下伊那地域とは異なる古墳文化の展開をみせて、経済圏の中核のひとつを、下伊那地域とはまったく異なった役割を負って担っていくこととなる。

エ 関連文化財群設定のねらい

長野市域を中心とする善光寺平一帯には弥生時代から古墳時代かけての、「信濃国」成立へ向けた政治・経済圏の形成過程を知る上で重要な史跡や考古資料が集積しており、それらの調査や保存活用、情報発信を継続的に行うため、関連文化財群を設定した。



積石塚古墳（大室 168 号墳）



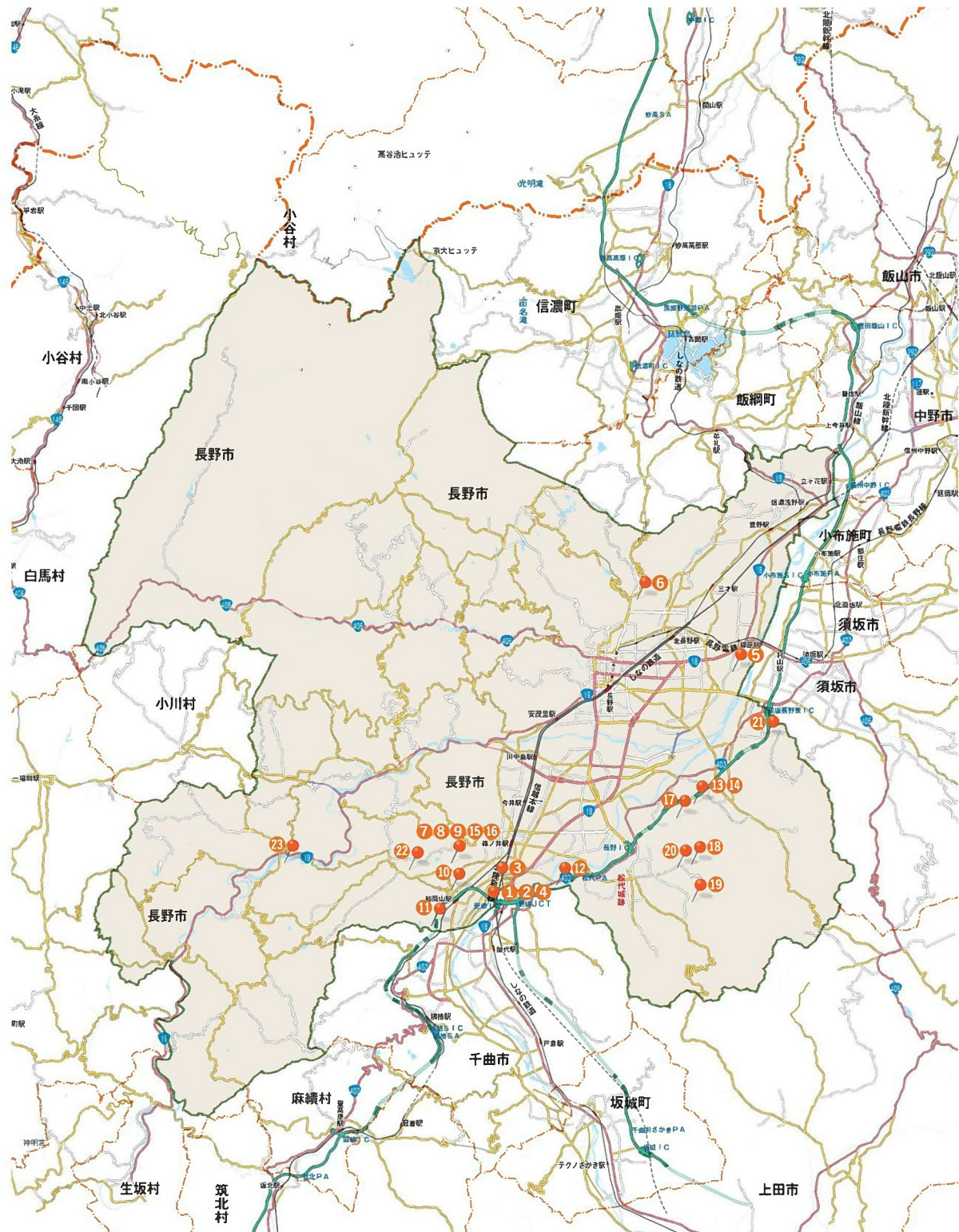
木製馬具（壺鈴、榎田遺跡）『長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』37（1999 年）より転載

構成文化財一覧

番号	名 称	概 要	類 型	指定区分
1	銅銚及び石製模造銚	篠ノ井塩崎の松節遺跡から出土した弥生時代の青銅製と石製の銚、赤い土器のクニの祭りの道具。	考古資料	市指定有形文化財
2	伊勢宮遺跡出土遺物	篠ノ井塩崎の伊勢宮遺跡から採集された遺物群。弥生時代石器群と遠賀川系土器・東海系条痕文土器を含み、稲作の伝来を伝える資料。	考古資料	市指定有形文化財
3	篠ノ井遺跡群出土品	弥生時代・古墳時代の集落遺跡（赤い土器のクニ、シナノのクニの中核的集落）。	考古資料	未指定
4	塩崎遺跡群出土品	弥生時代・古墳時代の集落遺跡（赤い土器のクニ、シナノのクニの中核的集落）。	考古資料	未指定
5	小島柳原遺跡群出土品	弥生時代・古墳時代の集落遺跡（赤い土器のクニの中核的集落）。	考古資料	未指定
6	檀田遺跡出土品	弥生時代・古墳時代の集落遺跡（赤い土器のクニの中核的集落）。	考古資料	未指定
7	川柳将軍塚古墳・姫塚古墳	古墳時代前期後半に築造された全長 93mの前方後円墳、シナノの王墓。	遺跡	国指定史跡
8	伝川柳将軍塚古墳出土品	川柳将軍塚古墳の出土品。	考古資料	県宝
9	埴輪円筒棺	川柳将軍塚古墳の墳丘裾部から発掘された従属的埋葬棺。	考古資料	市指定有形文化財
10	中郷神社前方後円墳	篠ノ井塩崎地区に所在する全長 53mの前方後円墳。	遺跡	市指定史跡
11	越将軍塚古墳	篠ノ井塩崎地区に所在する直径 33mの大型円墳。	遺跡	市指定史跡
12	土口将軍塚古墳	古墳時代中期中葉に築造された全長 68mの前方後円墳、シナノの王墓。	遺跡	国指定史跡
13	和田東山古墳群	川田条里に面した尾根の上に築造された、前方後円墳 3 基、円墳 2 基から構成される古墳群。	遺跡	未指定
14	素環頭太刀及び内反太刀	若穂保科の片山古墳（積石塚古墳）から出土した二種の大刀で、長野盆地の初期積石塚古墳	考古資料	市指定有形文化財

		の副葬品。		
15	飯綱社古墳出土品 附 布制神社御神宝之図	長野盆地最古の馬具を含む飯 綱社古墳の出土品。	考古資料	市指定有形文 化財
16	飯綱社古墳	古墳時代中期中葉に築造され た、篠ノ井塩崎地区に所在する 一辺 15m 程度の方墳。	遺跡	未指定
17	大室古墳群	総数 500 余基の東日本を代表 する大古墳群。400 基余りの積 石塚古墳を含み、積石塚古墳群 としては日本最大。	遺跡	国指定史跡
18	菅間王塚古墳	古墳時代中期後半から後期前 半に築造された、長野県最大規 模の積石塚古墳。	遺跡	県指定史跡
19	桑根井空塚古墳	合掌形石室を埋葬施設とする 古墳時代後期の積石塚古墳。	遺跡	県指定史跡
20	竹原笹塚古墳	合掌形石室を埋葬施設とする 古墳時代後期の積石塚古墳。	遺跡	市指定史跡
21	榎田遺跡	古墳時代の集落遺跡で、出土し た木製壺鐙は地方事例として は最古級。	遺跡	未指定
22	大塚古墳	信更地区に所在する前方後方 墳。	遺跡	市指定史跡
23	武富佐古墳	信州新町に所在する、古墳時代 中期中葉の円墳。	遺跡	市指定史跡

構成文化財の位置図



関連文化財群の保存・活用上の課題と方針

課題)

- ・埋蔵文化財の把握は開発事業に因っている部分が大きく、開発事業がほとんどない山間部などでは範囲把握が十分でない。
- ・調査された遺跡や出土した考古資料について、半世紀近く史跡や有形文化財（考古資料）の市指定案件が出されていない
- ・記録保存に伴う発掘調査事業完了後、遺跡や出土品を歴史資料として活用するための調査・研究体制が整っていない。
- ・外部の専門人材等との連携を深めていく必要がある。
- ・国史跡大室古墳群については、規模が大きく未整備の古墳も多いため、長期間の整備事業が求められる。
- ・指定文化財の古墳等を維持管理する地元団体が高齢化し、日常管理が難しくなっている。
- ・遺跡の調査記録、出土品などを収蔵するスペースが限界に達しているため、新たなスペースを確保する必要がある。
- ・山間部に所在する史跡は大型バスなどの進入が困難な場合が多く、団体による利活用を促進するためのインフラの整備を進める必要がある。
- ・関連文化財群を構成する文化財については市民にも知られていないものが多い。

方針)

- ・開発事業によらない埋蔵文化財の分布調査が行えるような仕組みづくりを検討する。
- ・既存資料も含めて、遺跡や出土品を考古資料としてさらに活用するため、外部の専門人材と連携した調査・研究体制の確立を目指す。
- ・国史跡大室古墳群の管理及び整備のための長期的な計画を立てる。
- ・文化財保存のための環境整備と担い手の人材育成に加え、保存会に代わる新たな仕組みづくりを検討していく。
- ・文化財の保存施設の充実や史跡へのアクセスの向上に取り組む。
- ・関連文化財について広く周知するための施策を行うとともに、教材化等を通して学校教育でも利活用できるようにしていく。

関連文化財群の保存・活用を進めるための措置

措 置	担当	事業内容	行政	文化財所有者	住民関係団体	有識者専門家	事業者	実施期間
1 ・埋蔵文化財分布調査	埋	埋蔵文化財包蔵地の範囲を確定するための調査を実施する。	◎		○	○		R6～R13
2 ・市内遺跡確認調査事業	埋	開発事業によらない、遺跡確認のための試掘・確認調査を実施する。	◎		○	○		R6～R9
3 ・資料の収集・整理・研究	埋	積石塚古墳文化に関わる資料の収集・整理・研究を行う。	◎		○	○		R6～R13
4 ・指定等文化財候補の選定	埋・文	遺跡・考古資料から、市指定史跡・有形文化財となる候補を選定する。	◎		○	○		R6～R13
5 ・史跡大室古墳群整備専門家会議	埋	大室古墳群の整備について学術的な点から意見をもらう会議を開催する。	○		○	◎		R6～R13
6 ・大室古墳群管理事業	埋	大室古墳群の管理及び古墳群の環境整備を行う。	◎	○		○		R6～R13
7 ・史跡大室古墳群保存整備事業	埋	未整備の古墳を中心に大室古墳群の保存整備を行う。	◎	○				R6～R13
8 ・史跡大室古墳群保存管理計画の策定【新】	埋	大室古墳群の保存整備についての長期的な計画をたてる。	◎	○		○		R10～R13
9 ・文化財保護への支援	文	補助金等の交付を通して、所有者の文化財保護活動の支援を行う。	◎	○				R6～R13

措 置		担 当	事業内容	行政	文化財所有者	住民関係団体	有識者専門家	事業者	実施期間
10	・地域の文化財の担い手育成	埋	地元の大室古墳群保存会の活動を支援するほか、より広い範囲での協力者を開拓する。	◎	○	○			R6～R13
11	・収蔵スペースの確保	埋・博	空き施設の有効活用や新規建設等により出土資料の収蔵スペースの確保に努める。	◎					R6～R13
12	・博物館収蔵庫改修・特別収蔵庫の設置の検討【新】	埋・博	発掘出土品のうち、温度・湿度管理が必要な文化財を専用に収蔵できるような施設の設置を検討する。	◎					R10～R13
13	・大室古墳群アクセス道路の整備	文	大室古墳群までの道が狭小で車のすれ違いもできない状況のため、見学者を乗せたバスが通れるような道路を整備する。	◎	○	○			R6～R9
14	・関連文化財群に関する普及啓発	埋	文化財総合ポータルサイトや印刷物等で関連文化財群のストーリーや構成文化財を紹介していく。	◎		○			R6～R13
15	・構成文化財の教材化の検討【新】	埋	社会見学のコンテンツとして史跡見学のパッケージ化や、教材としての利活用の方策を検討する。	◎		○			R6～R9
16	・博物館常設展示の更新・拡充、及び企画展の開催	埋・博	S56年開館以降、ほぼ変わっていない常設展示の考古分野についてこれまでの発掘の成果を盛り込んだ展示に更新する。	◎		○			R6～R13
17	・ガイドマップの作成及びガイド人材の育成【新】	埋	大室古墳群の見学者に対応するガイドマップの作成やガイド人材を育成する。	◎			○		R6～R13
18	・大室古墳群まつりの開催	埋	地元の保存会と協働して大室古墳群まつりを毎年開催する。	○		◎			R6～R13

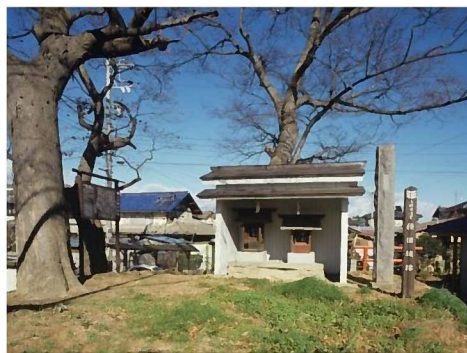
※埋＝埋蔵文化センター、文＝文化財課、博＝博物館

(3)関連文化財群3 川中島の戦いと伝承

ア 川中島の戦い以前の信濃武士

平安時代から鎌倉時代にかけて、険峻な山々に囲まれ、大小さまざまな河川が流れる長野市域では、多くの荘園や公領が成立し、それぞれの領主によって山城や居館が築かれるなど、比較的小規模な武士集団が分立する状況となっていた。

平安時代末期の治承4(1180)年には、信濃源氏の棟梁として、源(木曾)義仲が平氏を追討するために兵を挙げ、中信から東北信に進出した。これに対して平氏方は、城資職が越後国から数万騎を率いて信濃に入った。養和元(1181)年に篠ノ井横田で合戦が行われ、義仲軍が奇襲攻撃によって勝利を収めた。市指定史跡「横田城跡」は平安時代末ごろに築かれた城館で、義仲が利用したと伝わる。現在でも堀や土塁が残り、「馬出し」など往時を偲ばせる地名も伝えられている。源平の戦いにおいて、信濃の武士は源氏方として活躍し、その後の鎌倉時代には有力な御家人となって幕府との結びつきを強めていった。



様々な合戦で拠点となった横田城跡

鎌倉時代を通じて信濃国は幕府財政を支える根拠地の一つであり、幕府執権である北条氏の領国であった。しかし後醍醐天皇が討幕のために挙兵すると、信濃の有力御家人のひとりであった小笠原氏は新田義貞らとともに鎌倉へ攻め込み、鎌倉幕府を滅亡させた。その功で小笠原氏は信濃守護に任命された。しかし、信濃国内における北条氏の勢力は根強く、鎌倉幕府の執権であった北条高時の遺児である時行が諏訪地域で挙兵すると、信濃武士の多くはそ

れに与して小笠原氏と争った。この中先代の乱はすぐに鎮圧されたものの、その後の南北朝の動乱では信濃国内の武士は南朝方・北朝方に二分され、互いに争うこととなった。

その後、小笠原長秀の代になると善光寺を拠点に領国経営を始めた。するとかねてより対立していた信濃の武士が一揆を結んでその支配に対抗した。長秀は篠ノ井横田に陣を構え彼らを討伐しようとするものの、一揆勢は佐久や大町からも続々と軍勢が集まり、不利な形勢となった長秀は塩崎へ逃れ籠城した。しかし、最終的には降伏し、京都へと逃れることになった。

その後も信濃国内では様々な騒乱が繰り返され、武士はその度に離合集散を繰り返すこととなった。山国という地形もあって、強大な権力が創出されることはなく、「国衆」と呼ばれるような在地に勢力を持つ武士集団が割拠する状況になっていった。



大塔合戦の舞台となった塩崎城跡



室町時代に記された軍記物「大塔物語」

イ 川中島の戦いとその舞台

たびたび戦乱の舞台となった長野市域であるが、その中でも最も広く知られているのが越後の上杉謙信と甲斐の武田信玄によって繰り広げられた川中島の戦いである。当時北信濃の有力国衆であった村上義清は、天文 19(1550)年、自領に侵攻してきた武田晴信（のちの武田信玄）に対し、それまで敵対していた同じ国衆の高梨政頼と和睦し、信濃守護であった小笠原長時と手を組んで対抗し勝利した。しかし、武田方の侵攻は止むことがなく、ついに天文 22(1553)年、義清は葛尾城を捨てて敗走し、政頼を通じて長尾景虎（のちの上杉謙信）に支援を求めた。

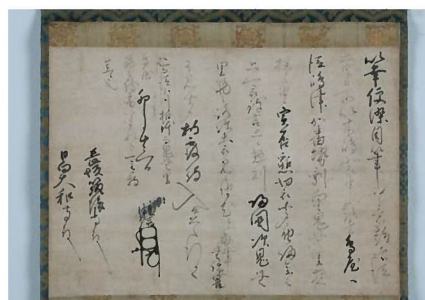
その後、北信濃の国衆を支援する上杉謙信と、信濃支配を進める武田信玄との間で、5回にわたって長野市域で合戦が行われ、信濃の武士はそれぞれの勢力の狭間で生き残りをかけていくことになる。

川中島の戦いの中でも特に激戦となったのが永禄 4(1561)年の八幡原の戦いとされている。江戸時代の軍記物においては謙信と信玄が一騎打ちをしたことで広く知られているが、この戦いでは信玄の弟である信繁や軍師の山本勘助が討ち死にするなど多数の戦死者を出した。現在でも市域には彼らを弔うための寺院や墓所、首塚などが残されている。



武田信繁討死を描いた江戸時代の錦絵

川中島の戦いを経て北信濃は次第に武田氏の領国に組み込まれていくが、その支配拠点となったのが、海津城であった。これは、永禄年間(1558-1570)年に信玄が対謙信の前線拠点として築城したとされており、現在でも「櫓形虎口」など武田流の築城術の痕跡を見ることができる。信玄は、ほかに長沼城、牧之島城など各地に城を整備し、北信濃支配を進めていった。天正 10(1582)年に織田氏によって武田氏が滅亡し、続いて本能寺の変が起こると、謙信の跡を継いだ景勝が混乱に乗じて越後国から侵入し、これらの城を拠点として支配を行った。かつて武田氏に追われた国衆も復帰を果たし、北信濃の武士の多くは上杉氏のもとで家臣として活動した。その後、豊臣政権のもとで、慶長 3(1598)年に上杉氏が奥州・会津へ転封になると、北信濃の武士はそれに従い長年暮らした地を離れた。



信玄が鬼無里方面の警戒を命じた書状



松代城の櫓形虎口



牧之島城の三日月堀

ウ 川中島の戦いのその後

長野市域だけでなく北信濃一帯に大きな影響を残した川中島の戦いは、江戸時代になると軍学書『甲陽軍鑑』とともに全国へと広まっていった。これは武田旧臣とされる軍学者・小幡景憲が甲州流軍学を教授するためのテキストとして使用したもので、甲州流軍学は全国の大名家で取り入れられ、それとともに川中島の戦いの「物語」も広まっていった。それらは次第に歌舞伎や人形浄瑠璃などの演劇や浮世絵の題材となり、脚色されながらも多くの人々に親しまれ、様々な作品が生み出されていくことになった。

一方、信玄と謙信が激突した川中島の古戦場は観光地としても人気を博していく。幕末に刊行された「善光寺道名所図会」は善光寺に至る街道筋の名所旧跡をまとめたものだが、そこでも古戦場が周辺の関連する史跡とともに大きく紹介されている。



善光寺道名所図会での一騎打ちの挿絵



甲陽軍鑑

その人気は明治以降も衰えることなく、大正天皇が皇太子時代の明治 35(1902)年に長野へ行啓した際には、宿所である善光寺大勧進から松代の真田邸へ向かう途中、古戦場を見学したいという申し出があり、立ち寄ることになった。現在でもお手植えの松や記念碑が残るほか、見学のために作成された合戦の様子をわかりやすく描いた絵図などが一般にも広まったことで、古戦場の名を高めるひとつの契

機にもなった。

450 年以上経てもなお、川中島の戦いと信濃の武士をめぐる「物語」は人々の心を惹きつけてやまない。現在でも、ゲームやマンガ、アニメの中で、武田信玄と上杉謙信の一騎打ちなどは、戦国時代を代表するモチーフとして幅広い年代に親しまれており、川中島古戦場史跡公園には全国から多くの人々が訪れている。

エ 関連文化財群設定のねらい

川中島合戦は全国的に名の知られた戦いであり、現在もその合戦跡をたどって本市に足を運ぶ人も多い。しかし、関連する遺跡は市域の広範囲に及んでいるのにもかかわらず、遺跡についての調査不足とその魅力の発信力が弱いため、情報を必要とする人たちのところまで届いていない。そのため、全市にわたる川中島合戦関連史跡の調査を行い、その状況を把握した上で、その魅力について積極的な情報発信を目指して関連文化財群を設定した。

構成文化財一覧

番号	名 称	概 要	類 型	指定等状況
1	武田信玄書状ほか博物館所蔵資料	信玄自筆書状など戦国時代の古文書類。	古文書	未指定

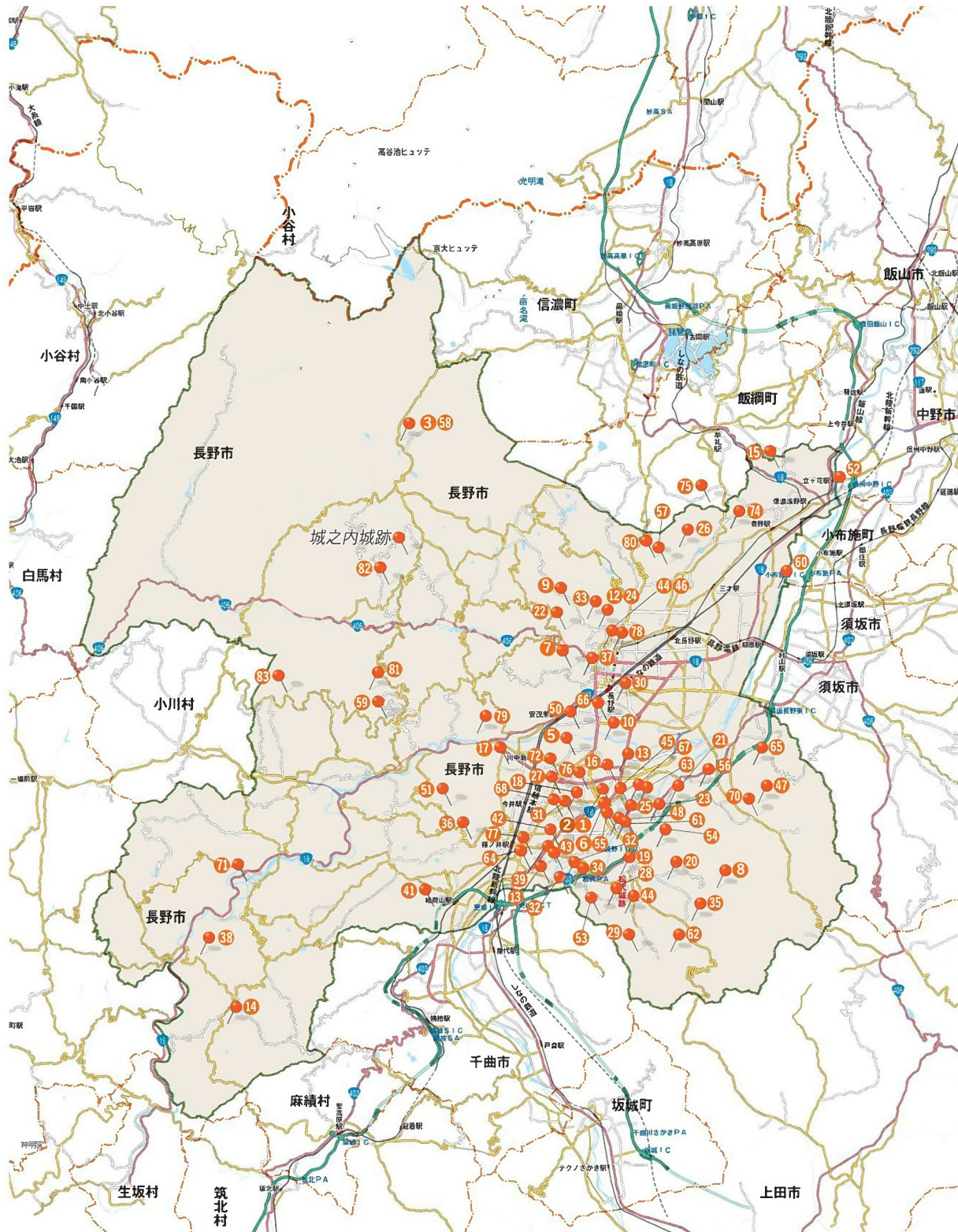
2	川中島古戦場史跡公園内の遺跡群	一騎打ち像や首塚など公園内に残る遺跡。	遺跡	未指定
3	武田晴信願状	戸隠神社へ奉納した願文。	古文書	市指定有形文化財
4	近世以降の川中島合戦関係資料	博物館が所蔵する合戦の錦絵、合戦案内図、絵葉書など。	歴史資料	未指定
5	青木神社跡	武田軍が勝鬨を挙げたという伝承が残る。	遺跡	未指定
6	赤川神社跡	社前にあった川は将兵の血で赤く染まったといわれる。	遺跡	未指定
7	旭山城跡（武田氏の城）	第2次合戦で謙信が籠る横山城に対峙した城。	遺跡	未指定
8	あまがざりじょうあと 尼巖城跡（東条氏の城）	真田幸隆に攻略され、海津城とともに守りを固めた。	遺跡	未指定
9	飯縄神社	修験道の霊山であり、信玄・謙信によって崇拝された。	遺跡	未指定
10	市村の渡し	第4次合戦で撤退する上杉軍の兵が多数討ち死にしたという。	遺跡	未指定
12	上杉の御膳水（ ごぜんすい 霊山寺）	謙信が飲み水に使ったという伝承が残る。	遺跡	未指定
13	戊ヶ瀬（ ごげせ 狗ヶ瀬）	第4次合戦で高坂昌信隊が渡ったという。	遺跡	未指定
14	大岡城跡（武田氏の城）	上杉軍進攻に備え武田軍によって築かれたという。	遺跡	未指定
15	大倉城跡（長沼島津氏の城）	長沼城を拠点とした島津氏の詰め城。	遺跡	市指定史跡
16	大堀館跡（第2次合戦の武田本陣）	第2次合戦の際、武田軍の本陣が置かれたという。	遺跡	未指定
17	おたきかきるのかのたに 小田切駿河守の墓（ めんこうじ 円光寺居館跡）	上杉方の武将で、葛山の戦いで討ち死にした。	遺跡	市指定史跡
18	おびなたきどのかみ 大日方佐渡守の墓（ しょうりゅうじ 昌龍寺）	武田方の武将で、広田砦の守将になったという。	遺跡	未指定
19	海津城跡（松代城跡）	武田氏が北信支配の拠点として築いた城。	遺跡	国指定史跡
20	かが い おんせん 加賀井温泉（信玄の隠し湯）	合戦で負傷した将兵を癒したと伝わる。	遺跡	未指定
21	かすみじょうあと 霞城跡（大室氏の城）	大室氏の城で海津城とともに守りを固めた。	遺跡	未指定
22	かつらやまじょうあと 葛山城跡（落合氏の城）	落合氏の城で武田軍によって落城した。	遺跡	市指定史跡
23	金井山城跡（金井氏の城）	金井氏の城で海津城とともに守りを固めた。	遺跡	未指定
24	川中島合戦勇士の首塚（霊山）	武田方の武将の骨が発見され	遺跡	未指定

	寺)	たという首塚。		
25	勘助宮 かんすけのみや	武田家軍師・山本勘助が討ち死にした場所とされる。	遺跡	未指定
26	旧山千寺観音堂 きんせんじ	第4次合戦の頃に焼失し武田氏が再興したという。	遺跡	市指定史跡
27	信玄憩いの井戸（境福寺）	信玄や将兵が喉を潤したとされる井戸。	遺跡	未指定
28	清野氏居館跡（古峰神社）	清野氏は上杉氏に属したがその後、武田氏に降った。	遺跡	未指定
29	鞍骨城跡（清野氏の城） くつほねしやうあど	清野氏が築いた山城。	遺跡	未指定
30	栗田城跡（栗田神社）	善光寺別当を務め武田家臣として活躍した栗田氏の城。	遺跡	未指定
31	桑山茂見の墓（狐丸塚） くわやましげのみ きつねまるづか	第4次合戦で主君の身代わりで討ち死にしたという。	遺跡	未指定
32	謙信鞍掛の松（会津比売神社） けんしんくわかけ まつ あいづひめじんじや	謙信が参拝の折に馬の鞍をかけたとの伝承が残る。	遺跡	未指定
33	謙信物見の岩 けんしんものみ いわ	謙信が武田軍の動きをここから観察したと伝わる。	遺跡	未指定
34	謙信槍尻之泉	謙信が槍尻で地面を突いて水を出したと伝わる。	遺跡	未指定
35	高坂昌信（春日虎綱）の墓 こうさかまさのぶ かすかたつな (明德寺)	武田四天王のひとりで、海津城の城代を務めた。	遺跡	未指定
36	耕心庵 こうしんあん	信玄が高坂昌信に命じて建立したと伝わる寺院。	遺跡	未指定
37	小柴見城跡（小柴見氏の城） こしばみじやうあど	小柴見氏の城で、旭山城の出城だったとされる。	遺跡	未指定
38	小松尾城跡（中牧氏の城）	大岡城や牧之島城などをつなぐための城とされる。	遺跡	未指定
39	小森氏館跡 こもりしだてあと	小森氏は諏訪氏の一族で、武田氏に仕えたという。	遺跡	未指定
40	妻女山 さいじょさん	第2次合戦で上杉軍の本陣が設けられたという。	遺跡	未指定
41	塩崎城跡（第5次合戦武田本陣）	第5次合戦で武田軍の本陣が設けられたという。	遺跡	未指定
42	十王堂（東福寺）	第4次合戦の戦死者を弔ったという。	遺跡	未指定
43	十二ヶ瀬	第4次合戦で高坂昌信隊が渡ったという。	遺跡	未指定
44	信玄・謙信位牌（善光寺大勧進）	幕末に武田旧臣によって納められた位牌。	歴史資料	未指定
45	山本勘助の墓（信州柴阿弥陀堂）	第4次合戦で討ち死にした武田軍師・山本勘助の墓。	遺跡	未指定
46	善光寺一帯	武田・上杉に重要視され、本尊などが持ち去られた。	遺跡	未指定

47	霜台城跡（保科氏の城）	保科氏の城で、街道沿いの要衝にあった。	遺跡	未指定
48	たけだのぶしげ 武田信繁の墓（典厩寺）	第4次合戦で討ち死にした信玄の弟・信繁の墓。	遺跡	未指定
49	竹山城跡（西条氏の城）	西条氏の城で鞍骨城の支城として機能した。	遺跡	未指定
50	たんばしま 丹波島の渡し	第4次合戦の際、上杉軍が渡河撤退したという。	遺跡	未指定
51	たにやま 茶臼山本陣跡（第4次合戦武田本陣）	第4次合戦ではじめ武田軍の本陣が置かれたという。	遺跡	未指定
52	手子塚城跡（島津氏の城）	長沼を拠点とした島津氏が築いた出城とされる。	遺跡	市指定史跡
53	天城城跡（清野氏の城）	鞍骨城の出城とされる。	遺跡	未指定
54	寺尾城跡（寺尾氏の城）	寺尾氏の城で善光寺と上田方面を結ぶ要衝にある。	遺跡	未指定
55	どうあいばし 胴合橋	討ち死にした山本勘助の首と体を合わせた場所という。	遺跡	未指定
56	東光寺文書	海津城の守護祈願所であり武田氏の書状が伝わる。	古文書	市指定有形文化財
57	堂沢出城	若槻山城の出城とされる。	遺跡	未指定
58	戸隠神社	信玄が奉納した願文が伝わる。	遺跡	未指定
59	戸屋城跡（春日氏の城）	上杉方の拠点として鬼無里方面への足掛かりとなった。	遺跡	未指定
60	長沼城跡（島津氏の城）	島津氏の城だったが、武田氏に奪われ拠点となった。	遺跡	未指定
61	猫ヶ瀬	第4次合戦で高坂昌信隊が渡ったという。	遺跡	未指定
62	ノロシ山（狼煙山）	武田軍の狼煙台が置かれていたという。	遺跡	未指定
63	馬場ヶ瀬	第4次合戦の際、謙信が追手を逃れて渡ったという。	遺跡	未指定
64	はらのおすみのかみ 原大隅守の墓（地藏寺）	第4次合戦で信玄を救援したという原大隅守の墓。	遺跡	未指定
65	春山城跡（井上氏の城）	謙信が味方の城へ向けて狼煙を上げたとされる。	遺跡	未指定
66	姫塚	討ち死にした上杉軍を弔うために建てられたという。	遺跡	未指定
67	広瀬（陣ヶ瀬）	第4次合戦の際、武田軍が利用したとされる。	遺跡	未指定
68	広田城跡（東昌寺）	上杉軍に備えるために武田軍が築いたとされる。	遺跡	未指定
69	ふの 布野の渡し	第4次合戦の際、上杉軍が利用したとされる。	遺跡	未指定

70	ほしなしたてあと 保科氏館跡（広徳寺）	広徳寺は保科氏が開基で、館跡に建てられたという。	遺跡	未指定
71	牧之島城跡（香坂氏の城）	武田四天王・馬場信春が入り北信支配の拠点となった。	遺跡	県指定史跡
72	まぐはり 幕張の杉	戦場との境界を示すために幕がかけられたという。	遺跡	未指定
73	町田正之の墓（長徳寺）	武田氏のもとで活躍したが、その後帰農したという。	遺跡	未指定
74	三日城跡（上杉氏の城）	謙信が家臣に命じて3日で築いたという城。	遺跡	市指定史跡
75	髻山城跡（上杉氏の城）	越後方面と善光寺を結ぶ要衝にあった城。	遺跡	未指定
76	もろずみ 豊後守の墓 諸角豊後守の墓	第4次合戦で討ち死にしたという武田家臣の墓。	遺跡	未指定
77	横田城跡	源平合戦、大塔合戦、川中島合戦でも利用されたという。	遺跡	市指定史跡
78	横山城跡（第2次合戦上杉本陣）	第2次合戦で上杉軍が本陣を置いたとされる城。	遺跡	未指定
79	よしくぼし 吉窪城跡（小田切氏の城）	小田切氏の城だが、武田軍に攻められ落城したという。	遺跡	未指定
80	わかつきやま 若槻山城跡（若槻氏の城）	若槻氏が築城し、戦国期は高梨氏の拠点だったという。	遺跡	市指定史跡
81	はぎのじょう 萩野城跡（春日氏の城）	春日氏の詰めの城だったとされる。	遺跡	市指定史跡
82	ふくたいら 福平城跡（溝口氏の城）	木曾義仲家臣・今井兼平が築いたともいわれる。	遺跡	市指定史跡
83	かしわばち 柏鉢城跡（武田氏の城）	武田氏が北信地域進出の足掛かりとした城。	遺跡	市指定史跡

構成文化財の位置図



関連文化財群の保存・活用上の課題と方針

課題)

- ・川中島の戦いについては研究蓄積が少ないため、発信する情報が少ない。
- ・関連文化財群を構成する文化財の総合的な情報発信ができていない。
- ・保存・活用の措置が講じられていない文化財が存在する。

方針)

- ・それぞれの文化財を適切に価値づけるため、川中島の戦いについての調査研究を進める。
- ・それぞれの文化財をつなぐストーリーを周知させる。
- ・それぞれの文化財の現状に応じて保存・活用の措置を講じていく

関連文化財群の保存・活用を進めるための措置

措 置		担当	事業内容	行政	文化財所有者	住民関係団体	有識者専門家	事業者	実施期間
1	・川中島の戦い関連資料の収集	博	川中島の戦い関連資料の調査研究や収集・購入を進める。	◎	○		○		R6～R13
2	・展示公開による情報発信	博	川中島の戦いについての研究成果を展示の形で市民等に発信する。	◎	○		○		R6～R13
3	・博物館展示設備改修	博	常に適正な環境で文化財を公開できるよう、老朽化している部分の設備改修を行っていく。	◎			○		R10～R13
4	・川中島合戦文化財周遊コンテンツの作成【新】	博・観光	構成文化財を効果的につなぐ周遊ルートなどを作成する。	◎	○	○	○	◎	R10～R13
5	・川中島の戦い関連文化財紹介HPの新設【新】	博	文化財総合ポータルサイト内に川中島の戦いをテーマとした文化財紹介コーナーを設ける。	◎	○	○	○	◎	R6～R9
6	・教育機関向け学習コンテンツの開発【新】	博	構成文化財から川中島合戦と市域の中世を学べるようなコンテンツを開発する。	◎	○	○			R10～R13
7	・牧之島城跡の保存整備を進める【新】	文	来訪者が見学しやすいよう史跡の整備を進める。	◎		○	○		R6～R9

※博＝博物館、観光＝観光振興課、文＝文化財課